

○ 「エルニーニョ現象」と「ラニーニャ現象」

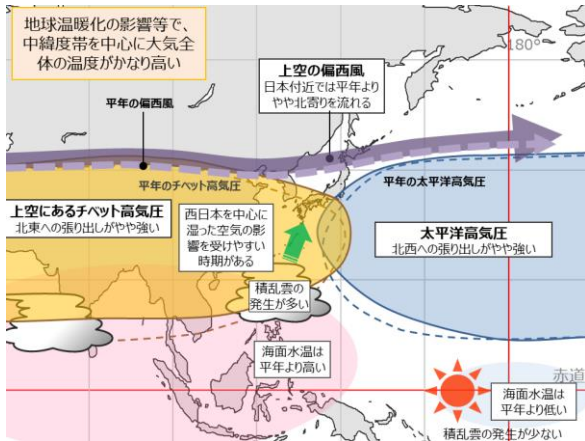
地球規模での異常気象が日本やわたしたちの身近な暮らしに影響を及ぼすことがあります。

世界気象機関(WMO)は、2023年から続いたエルニーニョ現象が終息し、夏以降はラニーニャ現象に移行する可能性が高いと発表しました。

エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象です。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象はラニーニャ現象と呼ばれ、それぞれ数年おきに発生します。

○ 今年夏季の日本の天候

気象庁の今年夏季の天候見通しでは、ラニーニャ現象に近い海面水温分布になるとのことです。

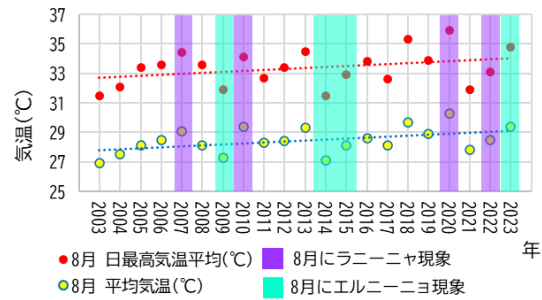


予想される海洋と大気の特徴
(気象庁ホームページより)

ラニーニャ現象が発生すると、日本の南の西太平洋熱帯域の海面水温は上昇し、積乱雲の活動が活発

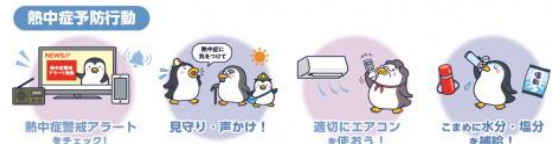
になります。このため、日本付近では、太平洋高気圧が北に張り出し、全国的に平年より気温が上がる可能性が高いとのことです。

○ 生活への影響



愛知県(名古屋市)における8月の日最高気温平均と平均気温(気象庁のデータを基に作図)

愛知県(名古屋市)では、ラニーニャ現象が発生する8月は高温になる傾向です。また、年々気温が上昇しており、昨年は冷夏になりやすいエルニーニョ現象が発生したにもかかわらず暑い夏となりました。今年の夏季も、より一層注意が必要です。県民の皆さんにおかれましては、熱中症予防行動を徹底し、体調にくれぐれもご注意ください。



(環境省指定暑熱避難施設リーフレットより)

環境調査センター 企画情報部
愛知県気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)



適応とは、気候変動の影響に備えること。

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

